

木を見て回るなかで地元の人たちとの「ふれあい」
ができれば最高です。旅人の醍醐味です！

香美市の木

ご説明

ここでご注意とお願いです

- コース巡回見学は安全第一でお願いします。山道は慎重運転で譲り合い、とくに厳寒期・雨期も含めて道路状況にご注意ください。
- 車の場合、燃料は満タンを心掛けてください。昨今、田舎道のGS（ガソリンスタンド）は閉鎖されている場合があります。
- 寺社境内（神域等）へ入る場合、失礼のない行動で地元の方たちに迷惑をかけないようにお願いします。
- 夏季に山へ入る場合はハチや蛇、蚊等に十分ご注意ください。
冬季、とくに11月から翌2月にかけては日暮れが早く、午後3時～4時までには基幹道へ戻るようにご留意願います。
- 山間では場所によって携帯電話が圏外となる場合があります。
- スギ花粉症等の方は自己責任で防御対策をお願いします。
- 当ガイドブックは予告なく改訂をすることがあります。

となそ際31深
くいれに時0い
にとぐあな時山
冬こらるん、間
はろいんて日で
ネは陽だとのほ
。暗のよこ入日
い当。るりの
のた が午出
だら 実後



木の生きるパワーをもらって元気でがんばろう！



土佐山田町中心部

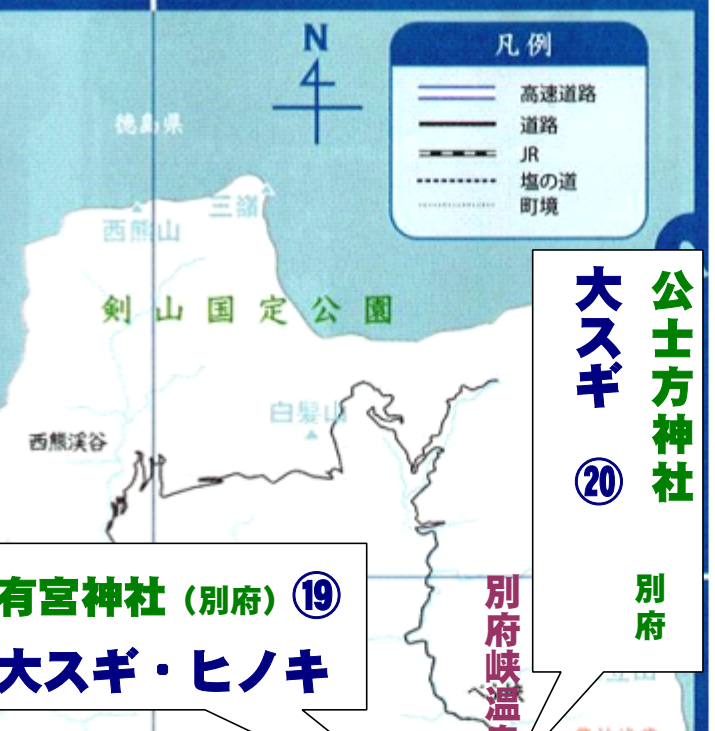
このマップは、本冊子掲載の香美市の木の所在地を整理番号順に表示し、位置関係を示すものです。
○所在地付近の店舗・施設等を色丸番号で紹介するものを使用しているため、マップ上の路線番号等一部を除き関係のないものが含まれています。

星神社 (槍水)
大スギ ⑬

大日寺 (神池)
大スギ ⑮

男池 (神池)
アカメヤナギ ⑮

香美市の木 探訪マップ



公土方神社
大スギ ⑮

別府

有宮神社 (別府) ⑮
大スギ・ヒノキ

別府峡温泉

香美市タクシー案内

土佐山田町	
(有)天呼観光	TEL 0887-57-9323
(有)香北観光タクシー	TEL 0887-53-2115
香陽ハイヤー(有)	TEL 0887-53-3158
浜田ハイヤー(有)	TEL 0887-53-3131
(有)平和ハイヤー	TEL 0887-53-4141
龍河洞観光タクシー(有)	TEL 0887-53-2141
香北町	
(有)香北観光	TEL 0887-59-2345
(有)在所ハイヤー	TEL 0887-59-2128
美良布ハイヤー	TEL 0887-59-2123
物部町	
(有)大橋観光タクシー	TEL 0887-58-3121

東山極神社
大スギ(跡)と第スギ ⑥
美良布

杉尾神社
大スギ ⑪
清爪

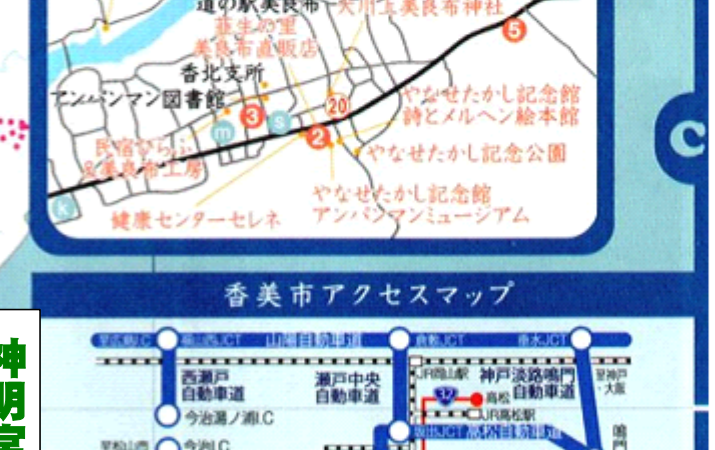
大橋
大ムクノキ ⑭
大北



若一王子宮
大スギ ⑤
下野尻

北久保神社 (吉野)
大スギ ⑨

神明宮神社
大スギ ⑬
伊勢丸



龍河洞 (逆川)
バクチノキ ④

別役神社 (西川甲)
大スギ ⑧

中谷川 ⑫
人面榎 (かし)



須江 ①
大ムクノキ

庚申堂 ②
オガタマノキ

大スギ ⑤

大スギ ⑪

大スギ ⑬



神母神社 (いげ) ③
大クスノキ (山田堰)

大スギ ⑨

大スギ ⑭



分類・整理番号	【巨木】 1
樹 種 (通称) (科目)	須江の大ムクノキ (ニレ科)
場 所	土佐山田町須江
胸高周り	9.4m ※1 本の木から 2 本の幹と想定
高さ	20m 余
樹齡 (推定)	300 年以上
国県市指定別	



角度を変えれば主幹二本だと分かる。北側の幹は斜めに生えている。農作のジャマだっただろう。

土佐山田町のおよそ西端に位置する須江地区に巨大なムクノキがある。ルートは国道 195 線もしくはあけぼの道路を南北に抜ける県道 31 号前浜植野線を北方向に行くと三叉路の信号交差点に出る。ここを左折して西へ少し行くと左手に大きな樹木 2 本が間を開けて見える。2 本ともムクノキであるが、右に見える方が目的の巨木である。交差点からすぐの道を左に入り小さい方のムクノキは後にして、先に見える立ち姿が良く大きい方のムクノキに近づき、車の場合は、道路脇の適当な場所に止める。新築の家の北隣り、農道らしき進入路を歩くと到着だ。

近くで見ると主幹は 2 本あることに気付く。いずれもドデカイことに驚く。残念ながら 1 本は幹が失われている。遺る 1 本でも迫力満点だが、2 本揃っていれば大迫力であっただろう。この付近は開墾地であり、おそらく開墾以前から生えていて、伐採するには畏れ多いと御神木とされたようだ。この土地は、圃場整備事業で最後に残したハギレ地であろう。

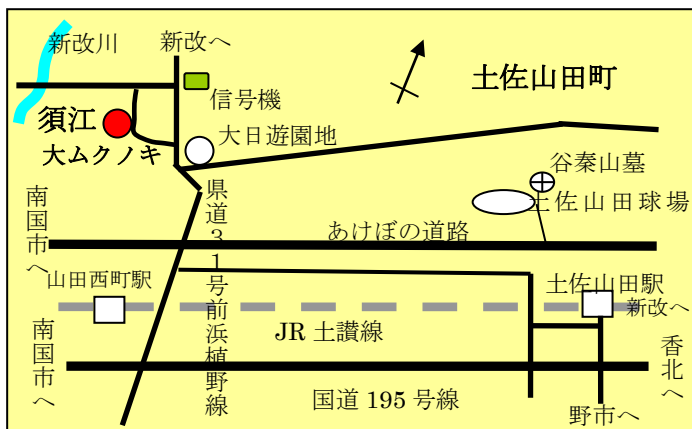
推測だが、耕地にするとき大木 2 本がデンと据わっていると大きな日陰ができ、農作に支障があるので形の悪い北側 1 本を伐木したのではと考える。



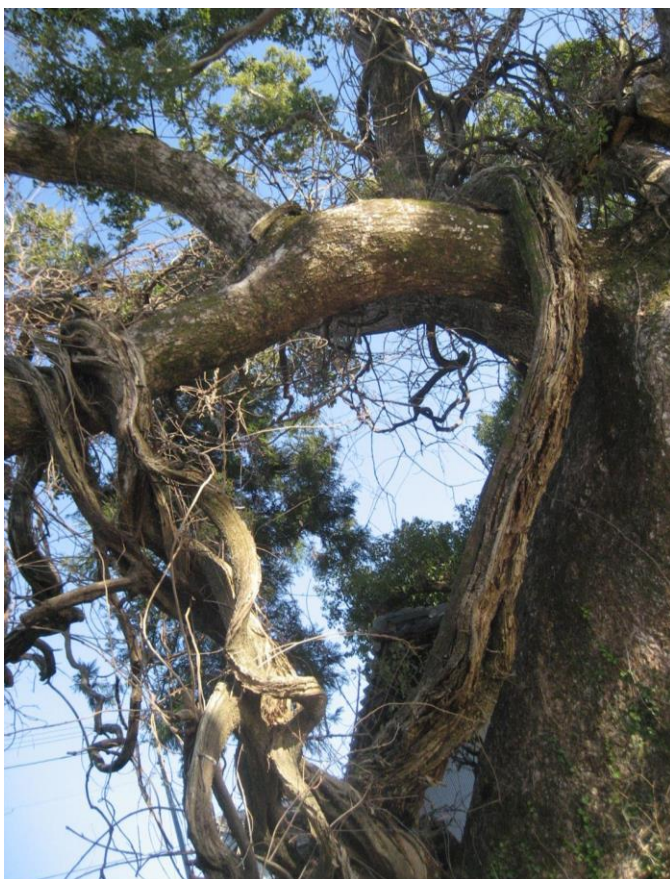
樹形は素直で良い。頂部に引っかかっているのは農業用ポリだ。



須江地区は明治期に新改川の水争いで流血事件もあった地区の一つ。甫喜ヶ峰疎水工事の完成（明治 33 年）でようやく問題解決した。大木は騒動の一部始終を見ていただろう。



分類・整理番号	【巨木】3
樹種(通称) (科目)	神母神社の大クスノキ (クスノキ科)
場 所	土佐山田町神母木 (山田堰史蹟)
胸高周り	6m
高さ	15.5m
樹齢(推定)	500 年以上
国県市指定別	香美市指定文化財 (天然記念物)



山田堰史蹟東岸に神母(いげ)神社があり、社殿を覆うように楠木の巨木がある。案内板には「神母神社は、一般に農作物の神を祀ると云われている。この楠木は高さ 15.5m、枝張り 19.5m、根廻り 5.7m 樹齢約 500 年と推定され、町内では最大の大木で、神母木の地名はこの大木より、名付けられたと考えられる。昭和 58 年 6 月建」とある。

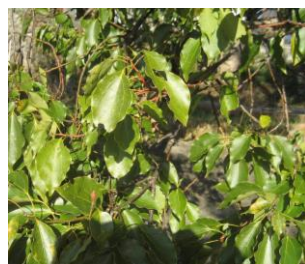
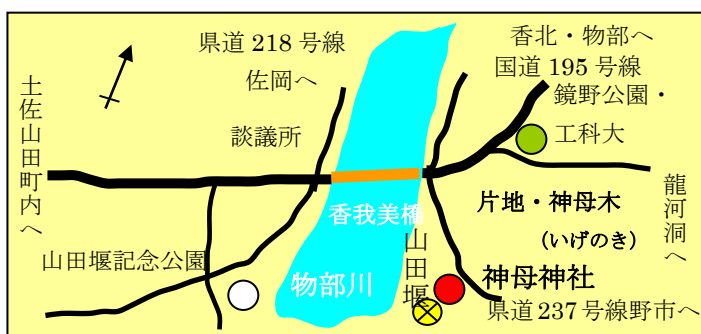
神母神社とクスノキは土佐藩家老野中兼山が建設した山田堰の工事期間、寛永 16 年(1639)から寛文 4 年(1664)まで、約 25 年間の難工事・苦闘を見守ってきたことになる。その頃、神母木集落ができ物流拠点として急速に発展、集落は賑わった。そして現代の姿。この間 380 年、人々の暮らしと栄枯盛衰、暴れ川と呼ぶ物部川の氾濫による堰の損壊、復旧と何もかにも見続け共生して来た巨木である。なお、神母木出身の漫画家故はらたいら氏は子供の頃、この巨木で遊んだと云う。



クスノキの全景。左の青い橋は国道 195 号線香我美橋



まつわり付く巨大な藤かずら。這う枝もデカイ。支柱が曲がっている。



クスノキの葉



神母神社

分類・整理番号	【珍木】4
樹種(通称) (科目)	バクチノキ (バラ科)
場所	龍河洞 土佐山田町逆川 1424
胸高周り	
高さ	
樹齢(推定)	
国県市指定別	

- 国指定史蹟天然記念「龍河洞」の出口付近にバクチノキの群生が見られる。
- 香美市指定文化財としてのバクチノキは特定個人所有地のものを対象としている。

暖地に自生する常緑高木(樹高10~15m)。本州(関東地方南部以西)、四国、九州、沖縄、台湾に分布。谷間や少し湿り気のある斜面などに成育。花は白、季節は9月。日本名の由来は、時ならず樹皮が自然に剥げ落ちる状態が、博打(バクチ)に負けて金銭、衣がハゲ失われることに例えたもの。

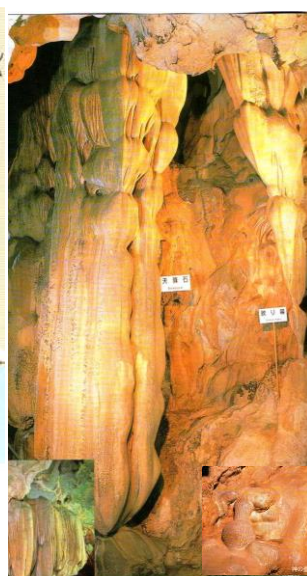
マホガニーの代用品として家具材、器具材、樹皮から黄色染色料の製造原料として用いる。葉を水蒸気で蒸留したものを「バクチ水」といい、医薬の原料として、咳止め、鎮静剤に使われる。別名・裸木/赤裸木ともいう。他に樹皮が剥げる木としてサルスベリ、カゴノキ、リョウブ等がある。



龍河洞出口通路付近の群生



観光のお問い合わせは
公益財団法人 龍河洞保存会
〒782-0005 高知県香美市土佐山田町逆川1424
☎0887-53-2144 (代表) FAX 0887-53-2145



★ 龍河洞 [土佐山田町逆川]

山頂付近に溜まった雨水が、1億7500万の年を経て創りあげた全長4kmに及ぶ石灰岩の鍾乳洞。約1kmの探勝コースでは、石筍や石柱はもちろん、古代人の遺した神の壺や弥生時代の生活跡も見られる。

● JR土佐山田駅から車で約20分
☎ 0887-53-2144 ☎ 0887-53-2145
👤 大人 / ¥1,100 中学生 / ¥700
小学生 / ¥550 (税込)
📅 [3月~11月] 8:30~17:00
[12月~2月] 8:30~16:30
📄 年中無休 🌐 <http://www.ryugadou.or.jp/>
🎫 700台

※ 冒険コースは探勝コース料金の1,000円増、ヘッドランプ・ヘルメットは無料貸出、ツナギ服・長靴レンタル料1,000円(完全予約制)

龍河洞 リュウくん

分類・整理番号	【巨木】5
樹種(通称) (科目)	若一王子宫神社のスギ
場 所	香北町下野尻
胸高周り	6m
高さ	30m弱
樹齢(推定)	300 年余
国県市指定別	



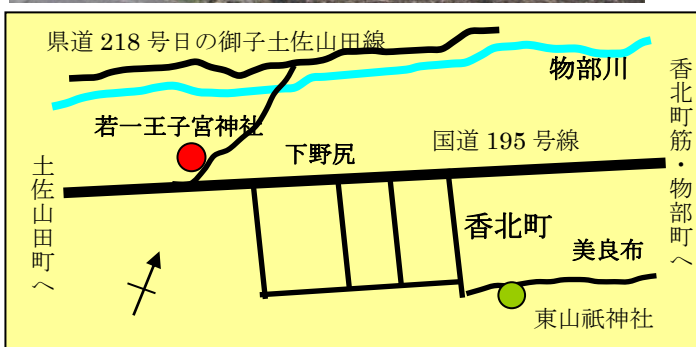
国道 195 線の香北町筋へ入るところに下野尻地区があり、国道から左道への分岐がある。その左道へ入ったすぐそこに若一王子宫神社の鳥居がある。

若一王子宫は明治の神仏分離令までは神仏習合の神で若王子（にゃくおうじ）ともいう。熊野三山に祀られる熊野十二所権現のうち五所王子の第一位であり、本地仏は十一面観音で、天照大神あるいは瓊々杵尊と同一視された。現在は神仏分離に伴い、「若一王子」を天照大神や瓊々杵尊に変えた所も多いが、従前のまま「若一王子」として祀っている神社もあるというのが通説である。しかし、当社の祭神はそうではない別の神と云う説もある。狛犬の台座には万延元年（1860）申九月日の文字。

境内にスギの大木がある。根張りもよいが残念ながら頂部が失われている。そのため、西隣の 5 階建団地ビルと比べて負けているように見える。



右は失われた頂部。残っていれば 40m 近くあり、突出していただろう。



国道分岐点左に入るとすぐそこだ。入った道は五百蔵農道へ。大宮橋を経て、物部川北岸（右岸）県道二一八号線へ出る。

分類・整理番号	【巨木】6
樹種(通称) (科目)	東山祇神社のスギ (スギ科)
場 所	香北町美良布
胸高周り	4m余 ※以前 6mの大スギあり
高さ	30m
樹齢(推定)	250年
国県市指定別	



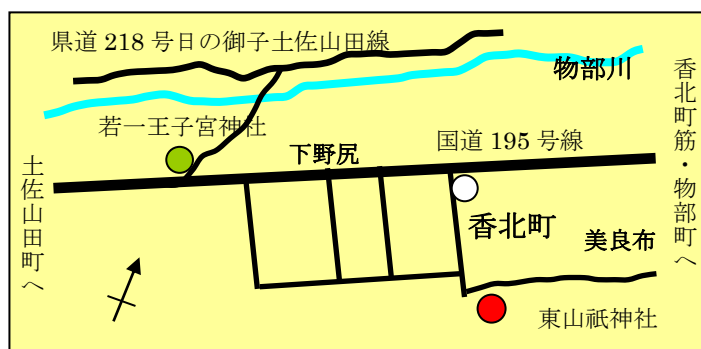
国道 195 線を物部方面へ向けて行くと香北町下野尻の若一王宮神社を左手に見て、道路右手、南の山裾沿いの国道と併行した道へつながる道が 4 本ある。いずれも東山祇神社へ行けるが、各道は農業ハウス群に囲まれて狭いものの通行はできる。直接、行ける道は図示してある道だ。神社は道路沿い山手にあり、神社の両側に簡易 P がある。

東山祇神社の祭神は大山祇命（おおやまづみのみこと）で普通、山の神、農業の神、お酒の神などと呼ばれている。この神社には 2010 年頃、傾いた巨スギ（胴囲 6m）が確認されているが、その後倒れて失われた。拝殿前に巨スギの残痕（切り株）がある。現在、弟分のスギ（胴囲 4m 余）が御神木である。

境内に昭和天皇御手播き樹の石碑が建っている。「桧 1、杉 3、スギ 4 本也 昭和廿五年三月廿三日、天皇四国巡幸ノ御高知城梅ノ壇ニテ御手播キアリ育成サレタ幼木中ヨリ右ノ氏子ヲ拝受、此処ニ植栽シクモノデアル 平成廿一年六月（後略）」とある。



境内で育成中の幼木群



香北町筋・物部町へ

右写真は国道右手から直接の進入口だ。地図で○印の場所です。四つ目の道を示している。ここも狭いが、すぐに神社が見えてくる。



分類・整理番号	【巨木】7
樹種(通称) (科目)	大川上美良布神社のスギ (スギ科)
場 所	香北町菰生野字大宮
胸高周り	6.5m
高さ	35m
樹齢(推定)	1000 年
国県市指定別	神社は県保護文化財



右は失われている頂部と鳥居近くに並ぶスギ。上は奥、左は鳥居近くのスギ。人と比較した。

大川上美良布神社は国道 195 号線沿いの道の駅、セレネ、アンパンマンミュージアムの向かい側、鎮守の森にある。信号機のある T 字路を北に入る。

同神社は延喜式内社で神階正一位の堂々たる由緒深い神社で、創建は約 1500 年前の雄略天皇の時代といわれ、古くから菰生郷の総鎮守として人々から崇敬されてきた。社殿の造り・彫刻は西日光とも云われている。見所はたくさんあるので、まずは立ち寄って拝観願いたい。詳細は案内板に記されている。

境内には巨木(スギ)、珍木(バクチノキ)等、多くの木があり森を形成している。鳥居の近くの 2 本の大スギが目を引く。頂部が失われているものの幹はデカイ。平成 30 年(2018)の台風で同神社境内のかなりの御神木が倒れ、一部倒木が建造物に及ぶ被害に遭った。近時の台風被害は深刻化の傾向にある。



この神社の境内にバクチノキを見つけた。珍木だ。



分類・整理番号	【巨木】8
樹種(通称) (科目)	別役神社の大スギ (スギ科)
場所	香北町西川甲
胸高周り	8.5m
高さ	35m
樹齢(推定)	400年余
国県市指定別	



国道 195 号線を香北町へ向かい、JR バス停土佐小川から南の道、県道 30 号香北赤岡線へ入る。小川から西川乙を通り西川甲まで南進する。この道は赤岡からの「塩の道」として有名である。途中、佐敷地区の手前に県道 224 号奈良香北線との分岐がある。右は佐敷、栗ノ木を通り赤岡へ、左は香南市香我美町方面への道だ。別役神社へ行くには左の県道 224 号線へ入ること。しばらく行くと同神社の灯籠台が道路脇にある。別役神社に到着だ。奈良川に架けた橋を渡り境内へ入る。

案内板には「古老の伝えるところによると、別役城主別役三吉郎が長曾我部元親父子に従い、豊後の戸次川に出陣するに当たり、武運長久を祈って杉 2 本を植えた。それが見事に成長したが、今から 80~90 年程前、台風のため 1 本が倒れ、残りの 1 本が現在の大木であるという」と記されている。別役三吉郎は新国主山内氏移封の際、帰農した。境内雰囲気は荘厳で戦国時代の歴史を感じる。

奈良川に架かる橋は事情は不祥だが仮橋だと思う。神社の雰囲気は荘厳であるだけにこの橋では今イチだ。



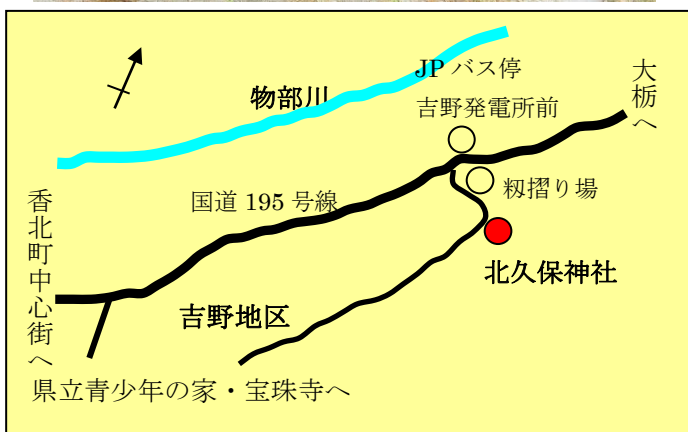
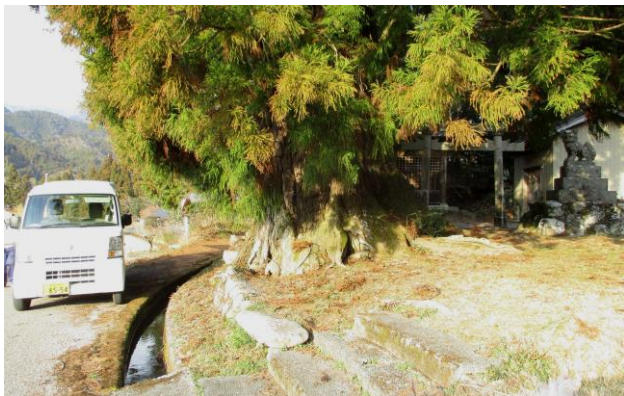
道は塩の道

県道 30 号線は海と山の交易路だった。



標識のとおり左の道へ入ること。右は栗ノ木、山北赤岡方面だ。

分類・整理番号	【巨木】9
樹種(通称) (科目)	北久保神社のスギ (スギ科)
場 所	香北町吉野
胸高周り	6.8m／6.8m
高さ	25m／30m
樹齢(推定)	300 年余
国県市指定別	



国道 195 号線を香北町へ向かい、町筋を抜けて宝珠寺・県立香北青少年の家の道路標識を過ぎ、さらに行くと JR バス停吉野発電所前があり、右手、南に転がり作業場がある。その前の道を入るとすぐに鎮守の森らしきものが見える。

ここが香北町吉野地区の東ハズレにある山ノ神の北久保神社である。祭神は山祇命（ヤマヅミノミコト）である。神社横には駐車スペースもある。境内には巨スギが 2 本、二手に分かれて立っている。一つは社殿後方、一つは鳥居近くにある。二本とも残念ながら頂部は折れており、折れ方は神社後方がヒドイ。互いに競い合いながら成長してきたものの、暴風に耐えられなかったようだ。地元の古老は、頂部が無いのはいつ頃かは知らないと話す。これらから、大スギ 2 本の頂部喪失は昔からとしておこう。

スギは高く伸びるだけに暴風にさらされると根張りが強くても上部が吹っ飛ばされてしまう。又、落雷も考えられ、その威力はスゴイ！



鳥居前の大スギが高く見えるが後の木と同じ。共に頂部は折損。



分類・整理番号	【巨木】10
樹種(通称) (科目)	日吉神社のヒノキ (ヒノキ科)
場 所	香北町根津
胸高周り	
高さ	30m
樹齡(推定)	
国県市指定別	



国道 195 号線は香北町吉野を過ぎると根津地区までは人家のない山裾を通るため、通行車両はかなり飛ばしている。根津地区手前の山裾カーブに目的の神社がある。そこは道路右手に神社への階段と車両進入路がある場所がそうである。よく見ないと通り過ぎてしまう。車両進入路は神社への管理道のようにポールと鎖で進入できないようにしている。少し余裕があるところに駐車できるが、道路は車両の通行が多いので気をつけて！

道路側壁の間にある石段を段数 148 と数えた人がいる、傾斜は 45 度はありそうだ。見上げただけでビビる。体力があれば登ればよい。でなければ進入路を歩いて登ることになる。この道も傾斜がキツく息が上がる。折れ道を約 250m ほど登ると神社境内に到着だ。日吉神社の祭神は山祇命（ヤマヅミノミコト）。社殿はオシャレな造りである。

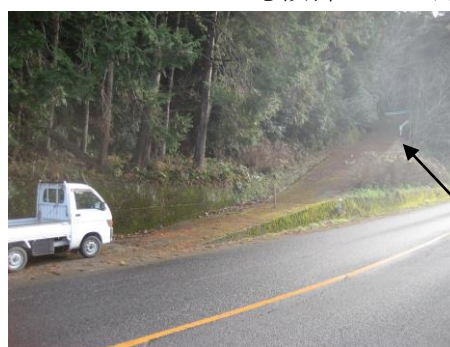
境内に 2 本のヒノキが並んで立つ。石段際に建つ石碑は日吉神社森林補植記念碑らしく桧 690 本杉 550 本等の文字が読みとれる。



日吉神社への石段
国道際にあるため、前をビュンビュン車が走り危険を感じる。どちらもツライが管理道を歩くが安全策。



管理道上から国道を見る。この道も傾斜がキツイ。転倒注意だ。



日吉神社への管理道
登り口に駐車スペースがある。鎖で封鎖している人が通れるよう間を開けてくれている。

分類・整理番号	【巨木】 11
樹 種(通称) (科目)	杉尾神社のスギ (スギ科)
場 所	香北町清爪 (せいづめ)
胸高周り	奥 5.7m 手前 6.5m
高さ	40m余
樹齡 (推定)	
国県市指定別	



国道 195 号線を物部方面へ向かい、香北町白石に JR バス停「清爪口」があり、そこに左へ入る道がある。その道を道なりにしばらく行くと物部川に新御在所橋が架かっているので渡ると県道 217 号久保大宮線に出る。県道沿い上手は清爪集落であり、杉尾神社への道は県道沿いに三ヶ所あるので、いずれかの道へ入り集落内の道を上流方面へ行く。集落内の道は狭いのでご注意を。抜けると田畑が広がる場所に出て神社の森が見えてくる。迷えば住民に聞いてみよう。

杉尾神社の祭神は大物主命 (おおものぬしのみこと = 大国主命の右魂: みぎみたま)。古来、地域の産土神で杉尾大明神と称され、鎮守の森となっている。

参道は二本の巨スギに挟まれた格好となっており、手前の巨スギは古木で根元付近が傷み始めているようにも見える。いずれにしてもゴツイ木だ。



スギの間を参道にしたのか、後から植えたのか不明だが、参道の補修が大変そうだ。



鷹の石像は羽毛の線が風化。形は良い。左写真には鎮守の森で二つの巨スギが突出している。

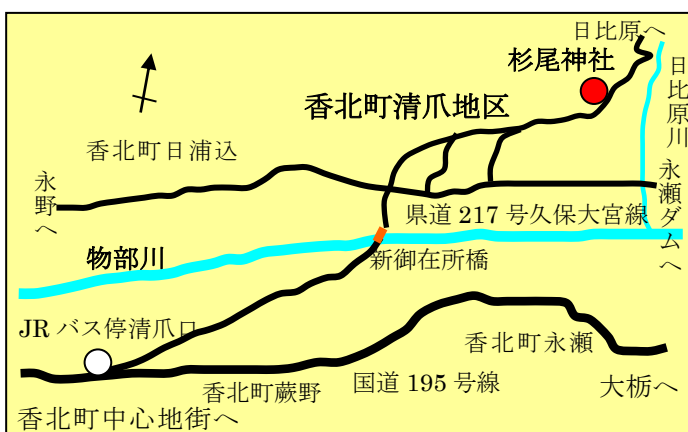


杉尾神社参道口

稲荷様式の鳥居と狛犬、兄弟鷹ひと居 (すえ) が揃いカッコ良く決まっている。

※兄弟鷹=雄と雌の鷹のこと

土佐には何故か稲荷様式の鳥居が多い。右手の道は日比原川、日比原集落へ至る。



分類・整理番号	【珍木】 12
樹 種(通称) (科目)	中谷川の人面櫪 (ブナ科)
場 所	物部町中谷川 (日裏)
胸高周り	
高さ	
樹齡 (推定)	
国県市指定別	香美市指定文化財 (天然記念物)



○ ドングリの実は長さ 13 mm 程度で小さくコロコロと転がって掴みにくい。

○ 下の写真は殻を剥いだ実を並べたものや殻と実を並べて、それぞれ比較をしたものだ。目を細めてよく見ると確かに人の顔に見える。

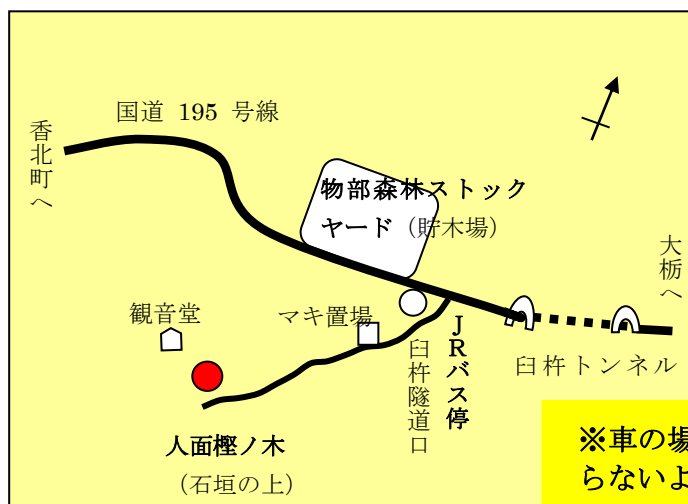
ドングリは表情が違い一つとして同じものはない。実は小さいのでルーペでのごくと想像がふくらむよ！

国道 195 号線を大柝方面に行くと、物部森林ストックヤード (貯木場) と臼杵トンネルの間に JR バス停「臼杵隧道口」がある。そこを南に向かう細道があり道なりに約 200m ほど歩くと石垣と廃屋がある。中谷川の観音堂境内となる石垣の上にあるアラ櫪 (かし) の木がある。一見して普通の櫪だ。

何が人面なのかと云うと 10 月末から 11 月頃に櫪の実であるドングリが落ちる。その実の殻をキレイに剥ぎ取ると胚乳の皺が人の顔をしていると云うから面白い。とにかく殻をうまく剥ぐことである。地元民の話では、なぜこんな実のなる櫪の木があるのか分らないと首をひねる。



この顔は少しまじめだ。これはマンガ顔だ。 トボケ顔？ ウー・これはウルトラマンに似ているゾ。



どんな顔したどんぐりと出会えるのか。中谷川の人面カシの木、楽しみだ。
どんぐりの時季には拾いに行ってみよう！

※車の場合は道路沿いの空きスペース等、違反・迷惑にならないように止めて徒歩で現地へ。車で乗込みは転回不可。

分類・整理番号	【巨木】13
樹種(通称) (科目)	神明宮神社の大スギ (スギ科)
場 所	物部町仙頭 (伊勢丸)
胸高周り	7.5m
高さ	60m
樹齢(推定)	300 年余
国県市指定別	

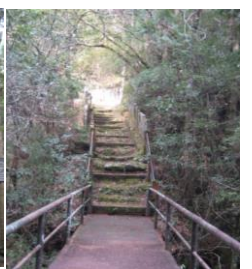


伊勢丸へは国道 195 号線を大柝方面に行き、大柝手前の高尾バス停付近に JA 土佐香美柚子選果場がある。国道上に県道 29 号安芸物部線の標識があるので右折して入る。そのまま道なりにクネクネとしばらく行くと市営バス停明改の分岐にさしかかる。まっすぐ行けば県道 29 号線だが、左道へ入り伊勢丸方面を目指す。この道は登り道であるがとにかく左に川を見ながら進むと伊勢丸集落に着く。市営バス停宮の口のところが神社参道への道だ。車は道路の空きスペースに通行のジャマにならないよう止めておく。歩いて道路を降り、川の近くの神社へ向かう。狭い小道を 50m ほど行くと木の鳥居が二つ並び参道口だと分かる。さらに川に架かる神教橋を渡り右折すると鳥居があり、くぐると境内である。深山幽谷、静寂の世界だ。

スギの巨木がデンと据わっている。案内板に「仙頭伊勢丸に鎮座する神明宮神社の大杉は悠然とそびえ、御神木として威容を誇っている。枝は四方に力強く張り出し、周囲の樹木を圧している。神明宮の祭神は、天照大神である。元亀二年(1571)の昔、仙頭の人が伊勢神宮に詣で勧請したものと伝えられている」とある。詳細は石碑をご覧ください。



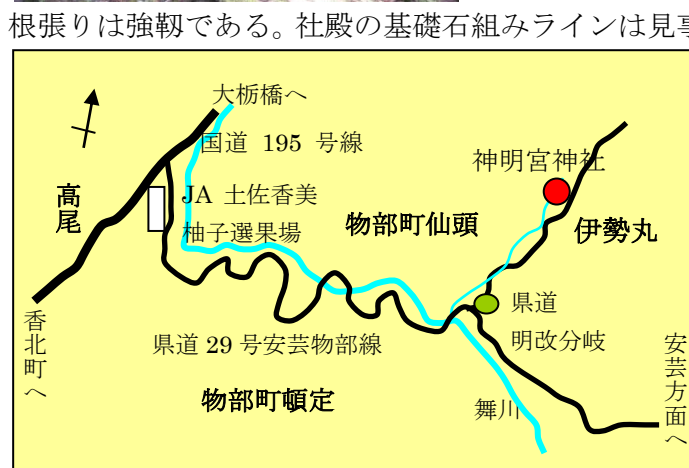
市営バス停宮の口。ガードレールの間を川の方へ降りる狭い小道が正式な参道口で裏口もあると住民は云う。



神明神宮の鳥居は神明様式が似合う。参道の鳥居は木造神明様式だが、稲荷様式で、伊勢神宮に習えば神明様式に統一すべきであった。



川に架かる橋は手前に神教橋と石碑が立ち、渡れば感通橋の石碑が立つ。意味は何か。



国道 195 号線を右折県道 29 号線へ。明改で左折、29 号線と分かれること。伊勢丸へは少し登坂路で、道なり一本道だ。



県道明改分岐左へ

国道195号線を大栃まで来て県道49号線へ入り大栃中学校辺りから旧道商店街へ入り、大栃保育園前を過ぎて製材所手前の十字路を東に右折、少し行くと大北公会堂がある道に出る。その前の阿闍梨神社境内にムクノキの巨木があり、木製の鳥居がある。案内板には「昔、山津波のため押し流されてきて、そのまま大きくなったものと云われており、地上へへばりつくようにして成育している。根元は板状になって深い凹凸がみられる。地上1.2mの所から3つの枝にわかれて這ったまま成長し、主幹となる枝の廻りが3.7m、西向きの枝ともに3mあり、およそ57㎡の広さで地上を被さっている。今でも毎年たくさんの実をつけ、子供や小鳥達に喜ばれている」とある。※阿闍梨→修験行者

[illegible]

分類・整理番号	【珍木】15
樹種(通称) (科目)	男池のアカメヤナギ (ヤナギ科)
場 所	物部町神池
胸高周り	幹周 2.82m
高さ	14m
樹齡(推定)	500 年余
国県市指定別	香美市指定文化財(天然記念物)

- 男池は水を湛え神秘的だが渇水期には中に入れる。
○女池は牝の大蛇が住む伝説だが、現在、水はない。

物部町神池の男池(おいけ)に巨大なアカメヤナギ(赤芽柳)の植生がある。ヤナギ科落葉高木。山野に自生。若葉は紅褐色で後に表面は緑色、裏面は銀白色になる。雌雄異株で、春、黄色の花が咲く。

池に伝わる昔噺(むかしばなし)によると、この池には遠い昔から雄の大蛇が住んでいて大層人々に恐れられていた。ある時、門明某という豪胆な鍛冶屋が大蛇を追いつき小刀を口にくわえ池に飛び込み泳ぎまわったが目的を果たすことができなかった。そこで大きな金槌(かなづち)を焼いて池に投げ入れたところ、大蛇は悲鳴をあげて逃げ去ったと云う。その後、人々は大蛇の祟りを恐れて池の片隅に小さな祠を建て大明神と崇めて大蛇の霊を祭ったとのことだ。



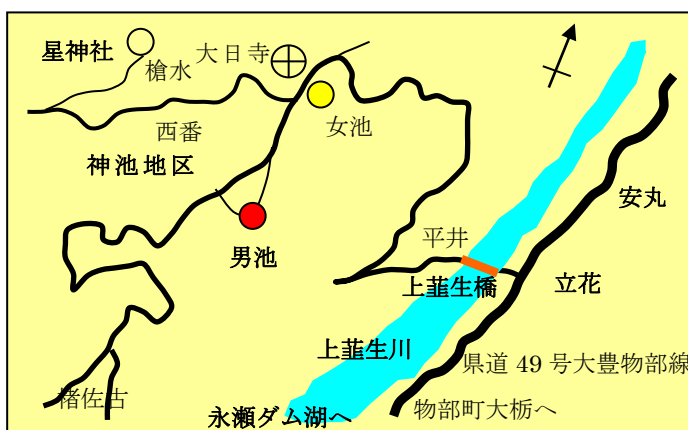
奇怪・異様な世界！

物部町

15



池からはみ出さんばかりに横たわる幹や地底を這う根の異様さに驚愕！



物部町神池の見どころ

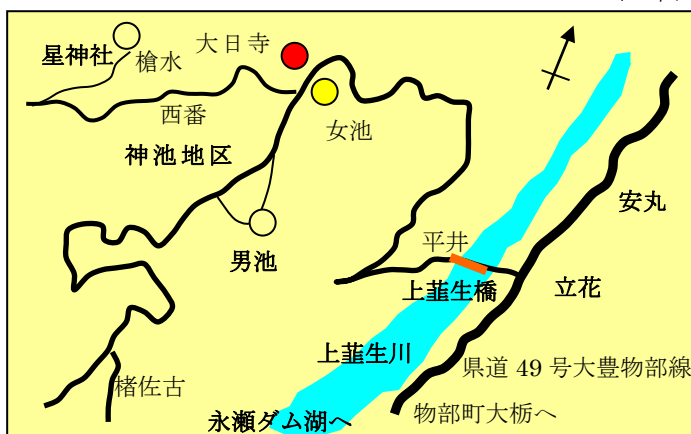
○地区に入ればすぐに多くの住民から出迎えを受ける・・・。実はこの住民、名物「案山子(かかし)人形」である。リアルさはコンクール優勝経験もあるだけに秀逸だ。○大日寺(元神通寺本堂=大日堂)は巨杉が有名。○4月~5月は女池周辺で鯉のぼりやフラフが乱舞する。必見だ。○高板山(皇の居た山)は安徳天皇落人伝説が残る。不動堂火渡りも有名だ。



分類・整理番号	【巨木】16
樹種(通称) (科目)	大日寺の大スギ (スギ科)
場 所	物部町神池 (旧池村)
胸高周り	10m
高さ	60m
樹齢 (推定)	800 年余
国県市指定別	高知県指定文化財 (天然記念物)



廃寺となった神通寺は大寺で山田氏の保護を受けたが長宗我部氏により縮小され、本堂のみが遺る。



物部町神池の神通寺廃寺跡に本堂であった大日堂が遺る。大日如来を祭る。奈良時代の大僧正行基が諸国巡業の時、ここに立ち寄って七堂伽藍を建て、自作の尊堂を安置したと伝えられ、又、弘法大師が四国八十八ヶ所の霊場を始めた時、ここに来て二十八番大日寺の奥の院と定めたとも云われ、或いは山田丹波守の祈願所であったとも伝えられている。

昔から池の大日様といって、縁日 (4月21日) には大勢の参詣者で賑わった。天保6年 (1835) 人々の浄財によって再建。その後、幾度かの葺き替えをして昭和5年に銅板葺きとした。

大杉は寺域内にあり、寺の霊木として、又、パワースポットとして荘厳さを加えている。樹勢は旺盛で成長を続けている。

伝説によると、大日寺には、かつて直径二十尺の杉の巨木があり、何か凶変があると、必ず、木の梢に燈明の光りが見えたので、村人たちは霊木として尊崇していた。ところが藩主はこれを帆船用材として伐出することを杣人 (そまびと) たちに命じた。終日伐採に励んだが、朝になると伐口はいえていた。その夜、様子をうかがうと僧たちが木っ端を拾って接ぎ合わせていた。杣たちは木っ端を焼き捨て数日後やっと伐採することができた。その後、杣たちは相次いで急病にかかり死に、造った船は出帆をしようすると大暴風が起こったので使用することをやめたと伝えられている。

この巨木の根元は最近まで確認できたが盛土をしたので埋もれてしまった。

※杣人 (そまびと・そまうど) = 山で働く人の総称。



分類・整理番号	【名木】 17
樹 種(通称) (科目)	星神社のスギ (スギ科)
場 所	物部町神池檜水
胸高周り	6.7m
高さ	50m余
樹齢(推定)	
国県市指定別	

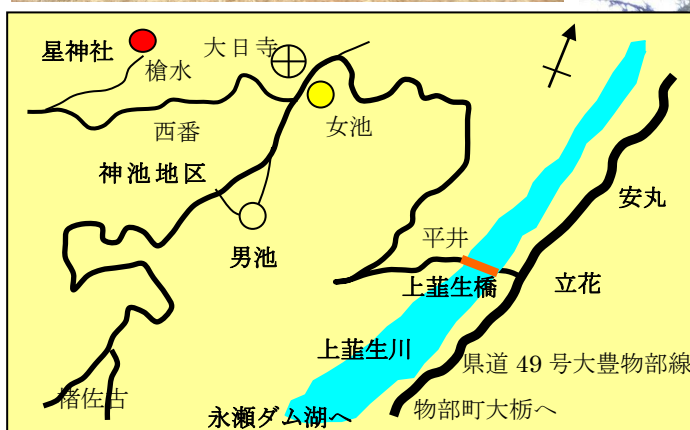
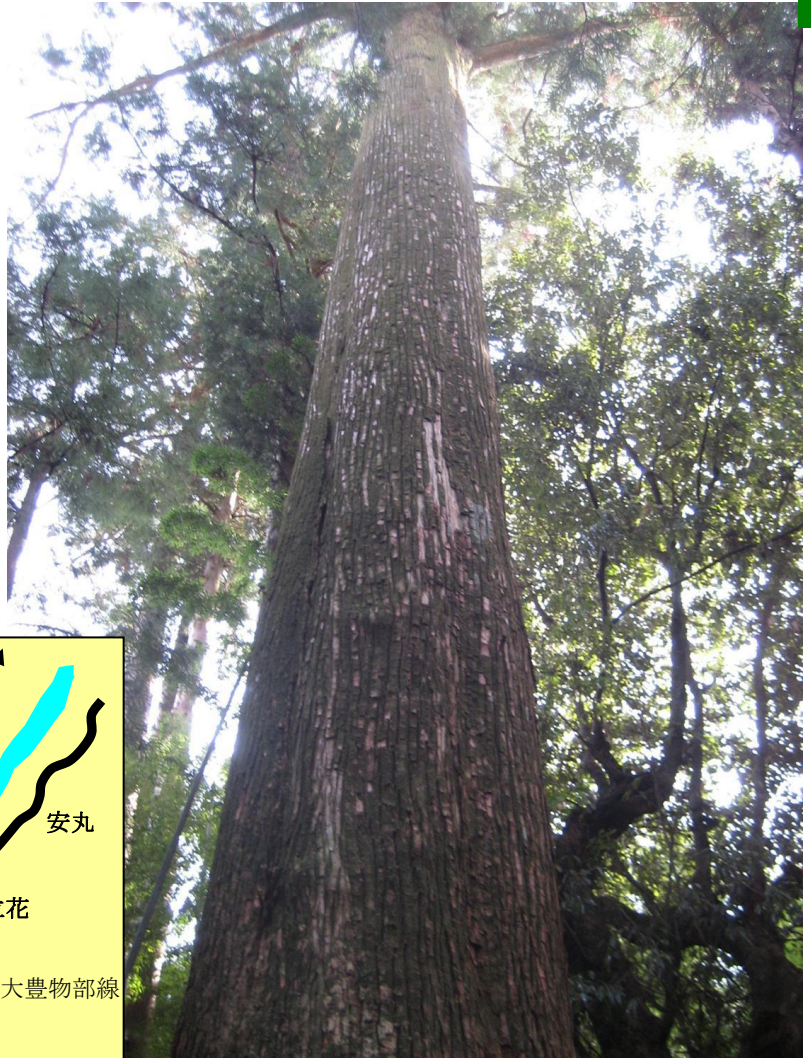
神池の大日寺から道が別れ、西番から檜水へと山道を登り、旧大栃高校実習棟前を過ぎて少し行くと星神社がある。香美市の星神社は産土神で三体妙見権現と称している場合が多く、この神社も明治期まではそう呼ばれていたかも知れない。祭神は宇宙に関わる神である天御中主命・十二星神、明星尊、北斗星神等で、とくに天御中主命（アマノミナカノヌシノミコト）は古事記の中で、最初に出てくる日本の最高神、宇宙の真ん中にいる神である。同神社の祭神はいずれか未祥だが誰だろう。

境内に立つ杉は巨杉と云うよりも、真っ直ぐに歪みなく伸びた針葉樹独特の三角錐は、その柔肌と見事な樹形で周囲の木々を凌駕しており、魅了される。「杉の名木」と呼ぶにふさわしい美形である。



椎の木は個人所有なので入れない。見るだけ。

椎（しい）の木
星神社への西番の道途中に樹勢旺盛な椎の木がある。道路北側の上だ。



分類・整理番号	【巨木】18
樹種(通称) (科目)	岩本神社の大スギ (スギ科)
場 所	物部町笹 (明賀)
胸高周り	9m
高さ	50m余
樹齡 (推定)	
国県市指定別	※くろす踊り市指定無形民俗文化財



この杉だけが突出している。

純信、お馬の愛の逃避行
二人は、道案内役安右衛門の手引きで、この笹越番所の裏側を抜けて、讃岐琴平へ逃げたと云う。追っ手にすぐ捕まった。坊さんかんざし買うをみたかなわぬ恋の悲しい物語であった。



物部町笹への道は、県道 49 号大豊物部線を通ることであり、五王堂奥番まで行き、上葦生川へ降りる分岐があるので左へ入ること。ここで右の道は県道 217 号久保大宮線と変わる。県道 49 号大豊物部線は上葦生川へ流れる笹川に沿う道である。

落合橋を渡り、笹川を左に右にと見ながら、ひたすら道なりに土居番橋、壺瀬橋、梅平橋を経て行くと笹川に流込む潰野々川の橋を渡る。その先に「岩本神社」が左手に、右向こうには「くろす踊り」で有名な「普賢堂 (ふげんどう)」がある。岩 (磐) 本神社の祭神は山祇命 (ヤマヅミノミコト) で岩本大権現と称された山ノ神である。境内の大杉は樹肌が荒々しく厳然と立つ巨木である。



この道は、土佐藩が江戸初期、寛永 5 年 (1628) 国境に 63 カ所の番所 (関所) 置いて、通行人を取調べた。香美地区の阿波境



には別府・久保・笹の 3 カ所があった。笹地区は土居に番所を置き、明治 4 年 (1871) の閉所まで存続した。土居番所跡の土蔵

普賢堂

夏祭りには各地から境内に人が集まり「くろす踊り」で踊り明かす！



徳安大和尚之墓

普賢堂は、明賀集落の東にあって、由来書には応永 2 年 (1395) 將軍足利義満の頃、僧徳安が普賢菩薩を背負って来て、安置したとある。宝永 5 年 (1708) に信者が堂を建立。現在の堂は明治 13 年に再建されたもの。古来、海側の産物と山側の産物の交易路で、お堂の拝殿上の鳴金具鰐口は、赤岡浜の商人が寄贈したものである。通商や通婚には、番所もお堂も大きく関わったようだ。先の大戦で供出した梵鐘の重量は約 450 kg と云う。

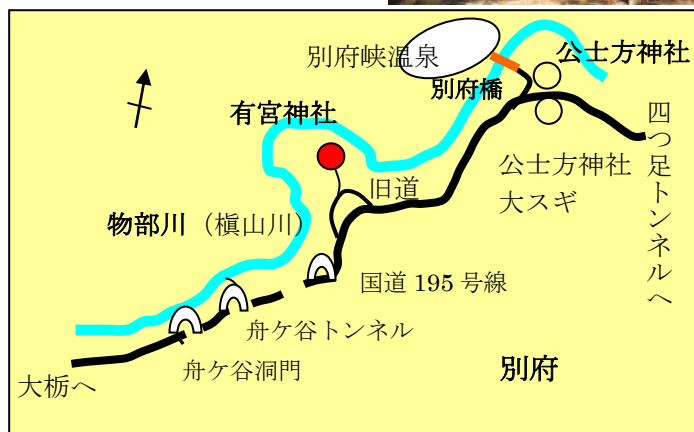
この堂の盆踊りは、その盛大盛況さで近郷に類がなかったといわれ、豊永や祖谷地域からの参詣者が多く、旧暦 6 月 23 日は、宵から夜明けまで徹夜で踊り明かした。ご本尊普賢菩薩は、女性の往生を説くところから、女性の信仰が篤く、普賢延命菩薩も知られることから、信仰の中心は女性であつたろう。クロス※を踊って、年に一度の晴着で輪になって踊る様子が思い浮かべられる。

※笹に伝わる踊りで、上葦生地区にはハッサンなどもある。

分類・整理番号	【巨木】 【名木】 19
樹種(通称) (科目)	有宮神社のスギとヒノキ (スギ科) (ヒノキ科)
場 所	物部町別府 541 番地口 (宮ノ本)
胸高周り	スギ 6.2m ヒノキ —
高さ	スギ 50m余 ヒノキ —
樹齡 (推定)	900 年
国県市指定別	



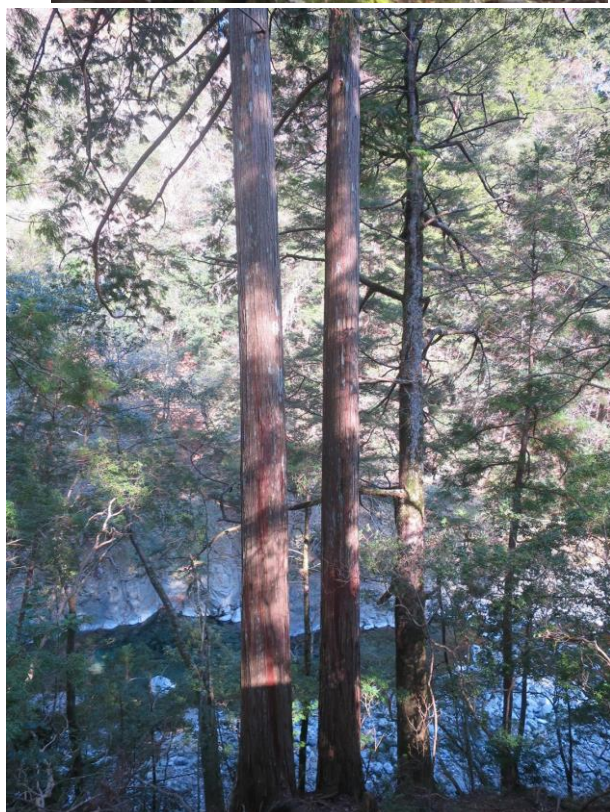
旧道に遺るトンネルと有宮神社。有宮神社は仙頭、平山にもあるが祭神未祥だ。旧香我美町中西川は大巳貴命（おおなむちのみこと）である。有宮とは「蟻を殺さない蟻通」を意味する説あり。



国道 195 号線を別府まで行くと、途中に舟ケ谷洞門と舟ケ谷トンネルが続くところがあり、同トンネルを抜け、少し右カーブになっている左手に旧道が遺っている場所がある。よく見ないと通り過ぎてしまう。車は旧道に駐車できる。旧道には廃トンネルがある。このトンネルの西側に有宮神社への道がある。奥へ 300m 程歩くと到着だ。

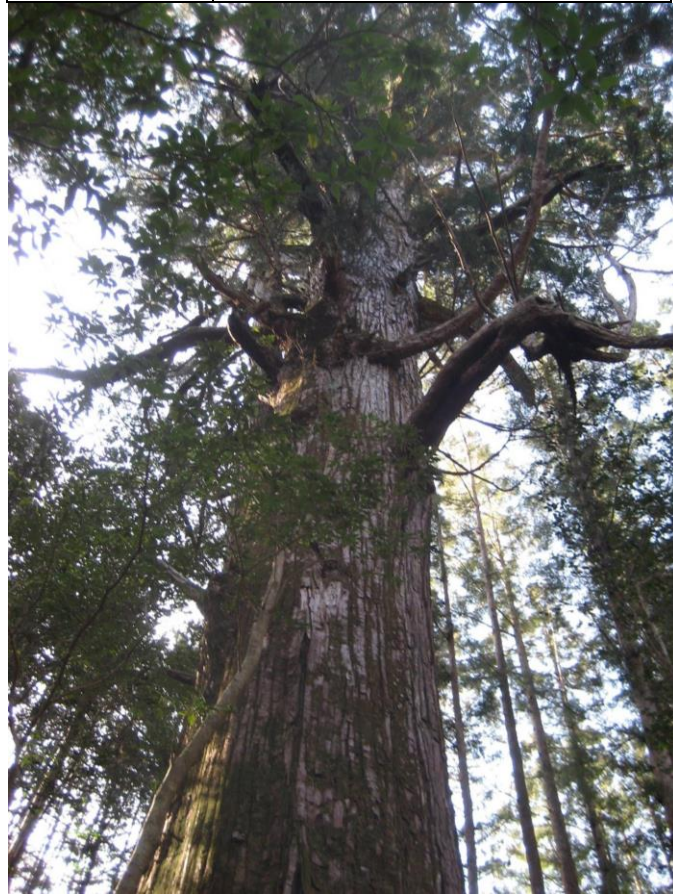
案内板には、「有宮神社は、別府宮ノ本に鎮座し、有宮大明神ともいい神体は石。祭神及び勧請年月は明らかでない。もとは岡ノ内村に属していたが、明治 9 年別府村に属し、古来、ヤナノ上の人々によりいつき祭られてきた神社である。社の右にそびえるスギの周りは 6m 弱、すらりと伸びた桧、輝くような樹肌、いつまでも見飽きない堂々とした美しい巨木は人目を驚かす。昭和 63 年 6 月」とある。幹周りは実測 6.2m なので現在までに 20 cm 余成長している。川縁に立つ見事なヒノキは必見だ。

成育環境か樹種によるものか当神社のスギは樹肌がなめらかですらりと伸びている。案内板の樹齡九百年より若いのでは？



このヒノキは美しい。ホレホレするほどの逸材である。

分類・整理番号	【巨木】 20
樹 種(通称) (科目)	公土方神社の大スギ (スギ科)
場 所	物部町別府宮ノ奈路
胸高周り	8.3m
高さ	60m余
樹齢(推定)	350 年余
国県市指定別	



国道 195 号線を別府まで行くと、土佐と阿波の国境である四つ足トンネル近くに別府峡温泉施設がある。その駐車場への進入路に物部川に架かる別府橋があるが、その橋の手前右手の小山の中に公土方神社（くじかたじんじゃ）がある。

公土方神社の祭神は奇日方命（くしひかたのみこと）とされる。この神の系譜はややこしいので割愛するが、事代主神（ことしろぬしのみこと）と関係があるようだ。昔、御上から木材伐出の命をうけた者（公土方）が作業の安全祈願をした神社で、古来、当地域の産土神で公土方大明神と称した。※祭神「くしひかた」と「くじかた」は読みが似る。

境内は 195 号線で分断されており、道路上の歩道橋を渡ると参道口があり狛犬が控えている。このことから昔の道は参道口側を通っていたことが分かる。国道 195 号線沿いには旧道が多く遺る。

同神社の大スギは参道口側の山にあり、説明書きに「悠然とそびえ御神木として威容を誇っている。枝は四方に力強く張り出し、肌は杉とは思えぬ赤みをおび、周囲の樹木を圧している」とある。



神社参道口 手摺りの道は歩道橋となっており、橋下は国道である。



公土方神社へは橋を挟んで別府峡温泉 P があるので、どちらかに駐車する。写真は温泉側 P から神社登坂口へ向かうところ。

神社は橋の向こうに見える小山の上だ。登坂路を歩く人たち。

